

# 植物の美を探る

H28年 遊学者 平井 浩貴

## ニューヨーク植物園

7月10日から8月18日までニューヨークとロサンゼルスに滞在しました。ニューヨーク滞在中はニューヨーク植物園でボタニカルアートのクラスに参加しました。この植物園は植物の展示だけではなく研究や、教育にも力を入れています。ボタニカルアートの他に園芸や植物学、フラワーアレンジメント等植物に関する様々な知識を学ぶことができます。

ボタニカルアートのクラスでは画材やその他道具の使い方、描線の引き方、遠近法の表現、植物の構造、画面の配置についてなど毎回レクチャーがあります。その後課題のモチーフを実際に描きます。2回目以降は前回の課題についてそれぞれ全員で鑑賞し、講評を受けます。他人の課題でも積極的に感想を言い合うのでとても刺激になりました。また今まで使ってこなかった道具や工程についても知ることができました。



←建物の中には図書室、展示室や講義を受けられる教室もあります。



←図書室では植物に関する様々な資料や、ボタニカルアートの実物の作品が収蔵されています。司書の方に頼んで作品を見せてもらいました。実物の作品は本を通して見る以上に存在感がありました。

ボタニカルアートとは植物の特徴を正確に描くアートの一つです。



植物園はとても広く、全てを隈なく見ることは難しいので温室の植物を集中的に観察しました。温室では熱帯の植物や、砂漠帯の植物など様々な環境で育つ植物を見ることができました。今まで見たことのない植物も多く、その色や形、大きさなども多種多様で驚きました。

## ロサンゼルス of 植物

ニューヨークの後ロサンゼルスに数日滞在しました。ロサンゼルスはニューヨークと同じ国とは思えないほど街の雰囲気も野外で見られる植物の様子も違いました。通りで見かける植物も巨大なヤシやサボテン、多肉植物などです。

ハンティントンライブラリーの植物園では砂漠植物の数と種類の多さに圧倒されました。照りつける太陽と見慣れない植物に囲まれるとどこか他の星に来たかのようなようでした。温室とはまた違う自然に近い環境で育った植物本来の生命力を感じました。





### シヨクダイオオコンニャク

毎回植物画のクラスが終わった後は園内の温室へ行って気になる植物のスケッチをしたり、写真を撮るなどしていました。ある日、前日には無かった巨大な植物が展示されていました。土の上に生えている蕾の様なものは人の背丈程もあります。植物園の人に話を聞くと、コープスフラワー(死体の花)と言われていて7年に1度だけ2日ほどの間だけ花を咲かせる植物で、この植物園でも初めて開花しそうなので展示しているとのことでした。

大きさ以上に、この植物の生態も変わっています。開花の時には腐った様な強烈な匂いがして、その匂いに集まってきた昆虫で受粉して実をつけます。種子から育った植物は何年もかけて木のように成長し地中の球茎に栄養を貯めます。その後、木のような部分は一度枯れてしまい最後に地中から巨大な花を咲かせてまた新たな実をつけるとその一生を終えるそうです。偶然にも珍しい植物の開花を実際に見ることができ、改めて植物の神秘を感じました。ちなみに普段はまばらな来園者も開花当日にはコープスフラワーを見ようと長蛇の列でした。

## 様々な文化

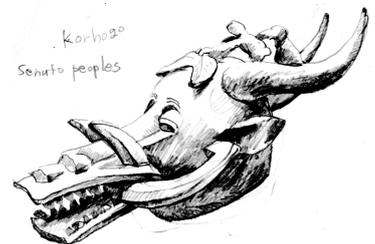
ひと月ほどの短い滞在でしたが、日本との一番の違いはやはり様々な人種や文化を持った人たちが暮らしていることだと感じました。電車に乗ると様々な国の言葉が飛び交い、民族衣裳を着た人もよく見かけました。玄関や窓からそれぞれの母国の国旗を掲げている家も目にしました。

食文化も多様でした。スーパーには日本では見かけない食材も多くありました。中でもアーティチョークは見た目にインパクトがありました。大きさはソフトボール程です。アザミの仲間です。蕾の部分を食べます。

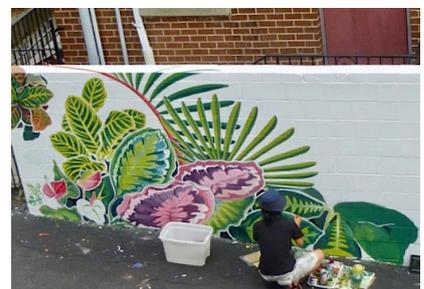


メトロポリタンミュージアムでは紀元前から現代までの世界中の美術品を見ることができました。時代や場所によって表現方法は違いますが、作品からは作った人たちのものを作ることに向けるひたむきな想いを感じました。

街の中にも、建物の壁や塀などに絵が描かれています。頼まれて描かれたものや、勝手に描いてしまったものなど様々です。ビルの壁一面に描かれたものもありました。



→滞在先の壁面に、今回みた植物を元に絵を描きました。外で絵を描いていると、色々声をかけられることがありました。いいねという人がいれば、だめだという人もいました。(勝手に描いた訳ではありません)



## 最後に

今回の滞在では日本では普段は見られないものを毎日見て、体験できた滞在でした。また異なる文化の混ざり合うなかで、改めて自分の生まれ育った日本を意識する機会でもありました。この経験を栄養にして今後の活動に活かしていきたいと思えます。